



あずっ子

こどもも おとなも 元気いっぱい 東町小!

入間市立東町小学校学校だより

10月1日発行

発行者 校長 野口正孝

在籍児童数470名(10/1現在)

読書の秋

9月27日の運動会では、多くの保護者の皆様に応援をいただき、ありがとうございました。私の中では、今年の運動会では子どもたちがどれだけ真剣に、最後まで取り組めるかをテーマとしていました。ですから、運動会の全体練習では常に子どもたちに「今持てる力を、全力で、最後まで」と話してきました。6年生にとっては最後の運動会でしたが、子どもたちの全員リレーで「今持てる力で最後まで全力で」取り組むことを体現してくれたと思います。とても素晴らしかったです。運動会が終わって教室に引き上げる1年生が、私に「(僕も)最後までがんばったよ」と言ってくれました。とてもうれしい気持ちになりました。東町小学校は「上の学年が下の学年の手本になる」。そんな学校になってくれると信じています。

さて、話は変わりますが読書の秋です。私事ですが、今年は「毎日本を読む」という目標を立てています。もともとは読書が好きで、以前はよく本を読んでいました。学生時代は学科の関係から、島崎藤村や夏目漱石など、純文学も読んでいました。純文学から科学、歴史に関する本、様々な本を乱読していました。しかし、今はネット社会になり、必要な情報はほぼネットで手に入れることができるようになりました。科学や歴史はインターネットを使えば簡単に調べることができます。写真や動画まで観られます。若いころは「男子ごはん」というテレビ番組を観て、その本を買って料理をすることがありました。しかし、料理のレシピは今ではいつ、どこでもインターネットで調べることができます。ですから、様々なハウツー本は必要なくなっていました。忙しさもありますが、こうしたインターネットの普及が読書を遠ざける原因になっているのかなと思います。

しかし、本にはネットの情報と違った良さがあります。それは「人の考えに触れる」ことができるということです。例えば小説であれば、その作者が作った物語の中で登場人物の思いや考えに触れることができます。また、エッセイであればそのまま作者の考えに触れられます。作者の考えに共感したり、逆に異見を持ったり、人の考えに触れることで自分の思いを確かめることができます。そういった意味でも、読書は大切だと思います。

現在、子どもたちの読解力が低いといわれます。読解力を高めるためには読書が必要なのは自白の理です。しかし、今求められている力は単に書かれている意味が分かることだけではありません。文科省から示されている読解力とは「PISA 型読解力」と言われています。これは単に文章の意味を理解するだけでなく、自分にとって必要な情報を抜き出し、その情報を自分の考えとどう結びつけることができるかという力です。こうした力をつけるために、私は子どもたちにまずたくさんの「物語」に触れてほしいと思っています。子どもの読書は絵本から始まり、物語や図鑑、そして様々なジャンルの本に広がっていきます。まずは物語を読んで、物語の世界に触れてほしいと思っています。こうした中で少しずつ登場人物への共感や異見を感じながら、読解力を高めていってほしいと思います。

また私事になりますが、「毎日本を読む」という目標を達成するために、毎日読める本を探しました。これは1日1ページで話が完結するので、無理なく目標が達成できそうです。また、電子書籍も購入しました。こちらも持ち歩きができるので、ちょっとした隙間の時間に読めそうです。読書の秋、保護者の皆様も本に親しまれてはいかがでしょうか。

